

# 令和7年度 学校自己評価システムシート（学校法人佐藤栄学園 さとえ学園小学校）

目指す学校像	教育理念を具現化し、「本当のリーダー」を育てる学校 子どもたちの「ふるさと」になる学校
--------	--

重点目標	<p>1. 本校教育の基本方針に基づき、計画的且つ円滑な教務・校務業務の遂行。 ①進路対策 ②児童募集 ③受験に向けた4教科の指導の充実</p> <p>2. 「本当のリーダーを育てる学校」を目標として、その具現化に向けての教育活動を展開する。 ①学習環境の整備②特色ある教育の推進・充実③豊かな人間関係づくりの推進</p> <p>3. 学校と家庭との連携「共育」を軸に、信頼関係を保つ学校運営。 ①保護者ととともに児童を育てる「共育」の実践②特色ある教育の推進・充実</p>
------	---

達成度	A	ほぼ達成
	B	概ね達成
	C	変化の兆し
	D	不十分

学校自己評価						
年度目標			年度評価			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	教務・進路入試センター・研修等の分掌（担当）において業務が進められているが、学校運営の根幹を担っている上記分掌が効率的に行われているかを確認。また、その他の分掌・係との連携によって、学校運営が円滑に行われているかを確認。	分掌ごとに計画・学期ごとの業務報告に具体的方策を記載。	年度初めに各分掌が年間計画を立案各学期末に業務報告を行い、目標達成度、現状における課題を見つけ、その方策を立てて次学期の業務遂行に反映させる。	各分掌が計画的に業務を遂行。また、学期末ごとに現状を把握し、今後の課題と改善策を記載し、次学期には改善を行った。	B	研究・研修推進体制の充実と広報の言語化 教育内容を徹底して言語化し、本校が「選ばれ続ける理由」を明確にする。系列校への進学強化を軸に、卒業後の具体的進路を募集戦略へ反映させる。児童会主導のPDCAで学校を改善し、信頼される発信力を構築する。
2	教科会・特色教育・放課後教育・課外活動・研修・児童会等の各分掌において、「本当のリーダーを育てる学校」「突破力を身につけさせる」を念頭に置きながら、教育目標の実践と学習指導と生活指導の一体化を推進することを通して、子どもの内在する可能性を拓く。	分掌ごとに計画・学期ごとの業務報告に具体的方策を記載。	年度初めに各分掌が年間業務計画を立案。各学期末に業務報告を行い、目標達成度、現状における課題を見つけ、その方策を立てて次学期の業務遂行に反映させる。公開研究会や校内研修を行い、日々の授業改善、教育技術の向上を図る。	各分掌が計画的に業務を遂行。また、学期末ごとに現状を報告し改善を行った。これまでの教育活動を見直し、より良い形での実施ができるよう学校行事を中心にブラッシュアップを行なった。	B	教育内容の再構築と具体的な将来像の提示「SATOE」を軸に教育を再構築し、知識を価値に変える「生み出す力」を育成する。6年後の到達像を可視化し、校外行事等で児童が主体的に学ぶ場を拡充する。中高接続を見据えた、子供たちの具体的な将来像を提示する。
3	保護者に対する様々な情報の発信、保護者の参加する学校行事、保護者会活動の充実。学園後援会活動に際して、保護者・教職員のより一層の積極的な活動参加により信頼を保った学校運営を行う。	分掌ごとに計画・学期ごとの業務報告に具体的方策を記載。	年に2回の保護者との個人面談や授業参観日に行なわれるアンケートでの意見や思いを参考としてこれまでの各業務の現状を修正。また、全学年保護者対象に進路情報の発信。6年生を対象に進路面談の時期や実施方法を見直した。	保護者全体会や個人面談を実施した。全体会、学年会の動画配信、個人面談のオンラインとの併用で、より多くの保護者が学校とのつながりが持てるよう実施方法を工夫した。	B	家庭との「共育」の深化と学校運営の効率化 保護者との「共育」を軸に、信頼関係を深める学校運営を推進する。保護者会との連携をより密にして、家庭と一体で児童を育てる体制を強化する。校務にはKPTを導入して業務を効率化し、教育の質向上と教員の負担軽減を両立させる。
その他	本校に於いては、上記の重点目標のほかに施設設備・備品管理・情報機器・環境美化・防災教育・学校保健・事務(経理・庶務)などの校務分掌にて独自に目標を設定し、各学期末に業務報告を行い、次学期・次年度への課題・改善策を講じている。					

学校関係者評価		
実施日 令和7年 6月 15日		
学校関係者からの意見・要望・評価等		
進路指導、児童募集、受験指導の各面について、これまでの取組を高く評価するとともに、今後のさらなる充実を期待しています。進路指導については、埼玉栄中学校・栄東中学校の説明会や学校見学会を早い段階から実施し、全学年の保護者が参加できる機会を設けていただいていることを大変ありがたく感じています。また、Satoe Studies、放課後教育、朝学習など、内部進学に向けた支援が充実していることに加え、外部受験を希望する児童に対しても、家庭と連携しながらきめ細かな支援をいただいていることに安心感を抱いています。今後は、系列校への進学をさらに強化するとともに、具体的な進路実績や進学支援の方針について、より分かりやすく発信していただきたいと考えています。	児童募集については、先生方による説明や児童が参加する学校説明会、動画、体験会などを通して、本校の教育方針や児童の姿がよく伝わっていると感じています。豊かな自然環境、多様な体験活動、ICTを活用した教育なども、本校の大きな魅力であると考えています。少子化や他校との競争が進む中で、卒業後の進路や系列校との連携を募集活動に一層反映し、本校ならではの特色を明確に発信していただきたいと思います。	学習指導については、体験を重視した授業や、受験に対応した教材の工夫、小テストやICTを活用した理解度の確認などを高く評価しています。今後も受験4教科の指導を充実させるとともに、特に低学年では応用的な内容を過度に増やすのではなく、計算や漢字などの基礎学力を確実に身に付けられる指導をお願いしたいと考えています。先生方が連携しながら教育方法を継続的に改善し、児童一人一人の興味や可能性を伸ばす教育を今後も進めていただくことを期待しています。
低学年棟のトイレや床の改修、プラネタリウムの更新など、学習環境が継続的に整備されていることを大変ありがたく感じています。水産館、ピオトブ、芝生の校庭、ラーニング commons などの充実した施設に加え、ICT担当教員や専門教員、スクールカウンセラーなどの支援体制も整っており、安心して子どもを通わせることができている。また、米作りやウミガメプロジェクト、企業との共同研究、校外学習などでは、事前準備から活動、振り返りまでを一連の学びとして経験することで、主体性や思考力、協調性が育まれていると感じます。結果だけでなく、試行錯誤する過程を大切にいただいていることも、本校の大きな魅力です。異学年交流や話し合い活動、スピーチなどを通して、相手を思いやり、自ら考えて行動する力も身に付いていると実感しています。	今後も、児童の興味や関心を学びにつなげ、「知識を価値に変える力」や困難を乗り越える突破力を育む教育を継続していただきたいと思います。あわせて、チャレンジテストの範囲や教材を早めに提示するなど、家庭で計画的に学習できるように配慮も期待しています。	
保護者会や学校行事の動画配信、個人面談のオンライン対応、Google Classroom を活用した連絡などにより、来校が難しい保護者にも学校の情報が届きやすくなっていることを大変ありがたく感じています。学校生活や学習の様子、教育方針が分かりやすく共有され、気になることがあった際にも、担任や教科担当の先生方が速やかに連携して対応してくださるため、安心して子どもを通わせることができている。	また、登下校の見守り、運動会の支援、環境整備などの保護者会活動を通して、学校と家庭が一体となって子どもを育てる「共育」が着実に進んでいると感じます。一方で、役員やクラス委員など積極的に参加する保護者と、事情により活動や情報確認の機会が少ない保護者との間に差が生じていることは課題です。今後は、一般保護者も無理なく参加できる活動や情報共有の機会を増やし、より多くの家庭が共育に関わる仕組みを検討していきたいと考えています。あわせて、根拠のない噂に左右されず、学校からの公式な情報を大切に、保護者同士が節度と品位をもって関わることも必要だと感じています。	
児童が安全で快適に学校生活を送れるよう、日々の教育活動、施設管理、防災教育、ICT環境の整備、温かくおいしい給食の提供に感謝しています。今後は、ネット犯罪やAIのリスク、プライバシー、包括的性教育など、児童を取り巻く新たな課題への指導もさらに充実していただきたいと考えています。また、各種連絡や出欠、提出書類を一つのシステムで完結できる仕組みや、プラネタリウムの積極的な活用も期待しています。電車利用や送迎時の安全について、上級生がポスターやクイズを用いて低学年に伝える活動も有効だと感じます。		